

いそべ圭太

ISO-BECCHI

市議会に是々非々で臨む

政務調査レポート第15号 討議資料



横浜市は370万人が暮らす日本最大の都市です。

将来人口推計では、横浜市の人口のピークは2019年で、およそ373万人であり、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少し、老年人口(65歳)は増加していきます。高齢化も増加の一途をたどり、人口ピーク時(2019年)でおおよそ25%の高齢化率に、2060年の参考値では、おおよそ35%以上の高齢化率になる見込みが立てられています。横浜市の最大の課題は財政構造です。個人市民税への依存度が高過ぎるのです。このままでは、団塊の世代の本格的な引退によって、税収が一気に落ち込む恐れがあります。

医療や福祉、教育、子育てと必要な所に、必要な施策を講じていくためにも、税収の確保は今まで以上に重要になります。

税金のムダ使いは解消しなければいけませんし、行政改革も徹底的に行っていく必要があります。しかし、それだけではどうにもならないところまで来ているのが、地方自治の実情であり、横浜の現状です。変わる努力をしなければ、横浜市は今後、衰退の一途を辿ることでしょう。今、正にその帰路に私たちは立っているのです。

私は横浜市が持つ潜在力を引き出せば、まだ変わることができますと考えています。そう信じて、日々の活動を続けています。10年後、20年後の横浜市を見据えて、課題を洗い出し、政策を考え、実現していかなくてはなりません。

市民の声が届く議会に変え、行政改革によって筋肉質な行政経営に切り替え、税金を適切に配分できる、そんな横浜市を実現していきます。従来の予算要望型の政治を一度、見直す必要も出てくるでしょう。これまでのやり方を見直す時、必ず、反発も出てくるでしょう。特に地方自治は、市民生活に身近な案件を扱うだけに、その反発は大きいかもしれません。しかし、少子化の影響が向こう30年は続くこと、これからいよいよ本格的な高齢化社会に突入することを考えた時、今こそ横浜市のグランド・デザインを描く時です。

私は市民のみなさんと共に、横浜から新しい時代の地方自治を創っていきたくと考えています。そして、新しい地方自治の在り方を全国に発信できたとき、きっと、横浜の未来は輝かしいものになり、日本も元気になるはずですよ。

みなさんのご意見をぜひ、お聞かせ下さい。
一緒に横浜の未来を創りましょう!



市議会に
是々非々で臨む
いそべ圭太

横浜市議員
(保土ヶ谷区選出)

+いそべ圭太事務所

TEL **045-337-3331** 〒240-0065
FAX **045-337-3332** 神奈川県横浜市
保土ヶ谷区和田1-20-22

+くらしの救急ガイド

救急医療情報相談ダイヤル
#7499 つながらない時は
TEL 045-227-7499

プッシュ① 救急医療情報センター
プッシュ② 小児救急電話相談
プッシュ③ 産科あんしん電話



+横浜市歯科保健医療センター

休日・夜間の歯痛には横浜市歯科保健医療センター
TEL **045-201-7737**

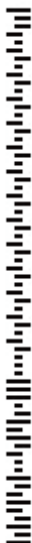
郵便はがき

2408790

< 受取人 >

横浜市保土ヶ谷区和田1-20-22

横浜市議員
いそべ圭太 事務所 行



料金受取人私郵便
保土ヶ谷局 認
承 4088

差出有効期限
平成26年12月
31日まで
(切手不要)

▼みなさまの声を聞かせてください。

「未来を結ぶアンケート」にぜひご協力ください。

このアンケートは、これからの横浜市政にとって重要な内容となっています。優先度が高いと思われる事項の番号を下記の回答票にお書きください。(※回答欄の間違えにご注意ください。)

回答は、ひとつだけ選択する項目と複数選択できる項目があります。もっとも関心のある番号をお選びください。回答の選択肢がない場合は、表面にその理由をご記入ください。

1. 行政改革 回答はふたつまで

- ① 将来世代へのツケを残さないためにも、議員や市長、市職員の人件費カットは必要
- ② 外郭団体等のあり方を再検討し、貯めこんでいる資産の活用や天下りを撲滅する
- ③ 民間にできることは民間に、さらなる市職員の削減、公務員の仕事と民間の仕事の徹底した仕分けを実施
- ④ 県との二重行政を早期に解消
- ⑤ 将来世代へのツケを残さないためにも、借金(市債)のさらなる削減
- ⑥ 各種補助金のあり方の再検討
- ⑦ 市営地下鉄、市営バスを民営化し、企業債から民間借入れに変え、金利コスト、人件費の削減を図る
- ⑧ 市民病院の再整備は民間主導で行うべき

2. 教育 回答はふたつまで

- ① いじめ根絶に向けた取り組みの強化
- ② 英語教育の充実
- ③ トップ層のさらなる引き上げ
- ④ グローバル人材の育成
- ⑤ 不登校など困難を抱える子供のケア
- ⑥ 優秀な教職員の確保など、教職員の質の向上
- ⑦ 寺子屋など地域のチカラを生かした教育支援
- ⑧ 礼儀や道徳、郷土愛を育む教育
- ⑨ 授業についていけない子供への支援強化、習熟度別学習の実施
- ⑩ 学校図書館を活用した読書の推進



3. 中学校給食 回答はひとつ

- ① 実施すべき
- ② 現行(弁当持参)のままでよい



4. 理由 回答はふたつまで

- ① 全国85%以上の公立中学校で実施
- ② 女性の負担軽減
- ③ 栄養バランスがとれる
- ④ 温かい食事が食べられる
- ⑤ 持参弁当だと夏場などの食中毒が心配
- ⑥ 川崎市や座間市でも実施するから
- ⑦ お弁当は作る親の愛情だから
- ⑧ 一定量の給食だと体格差を補えない
- ⑨ 今の持参弁当の現状で満足
- ⑩ 学校でのお弁当やパンを買えるから
- ⑪ 横浜市の財政負担が心配

郵便(平成26年12月31日の消印まで料金不要)
又はFAXでお送りください。

※FAXをお持ちの方は、FAXでの送信にご協力をお願いいたします。

FAX 045-337-3332

今後、福祉・子育て・暮らしにかかわるアンケートも
予定しております。ぜひご協力ください。

横浜市重要施策アンケート

1 行政改革		2 教育		3 中学校給食		4 理由	
-----------	--	---------	--	------------	--	---------	--

■差し支えない程度でご記入ください。

フリガナ							性別	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女
お名前									
年代	<input type="radio"/> 19歳以下	<input type="radio"/> 20歳代	<input type="radio"/> 30歳代	<input type="radio"/> 40歳代	<input type="radio"/> 50歳代	<input type="radio"/> 60歳代	<input type="radio"/> 70歳代	<input type="radio"/> 80歳以上	
ご住所	〒 -								
電話				FAX					
携帯電話				E-mail					

FAXで送信していただける方は >> **045-337-3332** << 表面にご記入いただいた方は表面送信してください。



市議会に
是々非々で臨む

いそべ圭太

横浜市議員
(保土ヶ谷区選出)

＋いそべ圭太事務所

TEL **045-337-3331** 〒240-0065
FAX **045-337-3332** 神奈川県横浜市
保土ヶ谷区和田1-20-22

＋くらしのガイド

横浜市コールセンター TEL **045-664-2525**
保土ヶ谷区役所 TEL **045-334-6262**
保土ヶ谷警察署 TEL **045-335-0110**
保土ヶ谷消防署 TEL **045-334-6696**

切り取って
必要の際に
ご利用ください

